

事例16 まな板が落下し、調理中の鍋がひっくり返り熱湯を浴びる

1 災害の概況

項目	内容
介護労働者	経験2年、50歳代の女性
作業	調理作業
災害の型	高温、低温の物との接触
起因物	熱湯
傷病	顔面及び胸部火傷
災害の程度	36日間の休業災害



2 発生状況

介護労働者が、利用者宅の台所で昼食の準備をしていたところ、ガスレンジ台の上部の棚においてあったまな板が落下し、加熱中のみそ汁の入っている鍋にあたり、その反動で鍋がひっくり返り、顔面から胸部にかけて熱湯を浴び火傷を負った。

3 原因

- (1) まな板を収納場所に置かず、ガスレンジ上段の不安定な所に置いていた。

4 対策

(1) 事業者

- ① 利用者宅に火気周辺、介護作業場所の整理整頓等を依頼する。
- ② 安全意識高揚の教育（KYT—危険予知訓練の導入等）を行う。

(2) 介護労働者

- ① 火気の上部には、物を置かないよう利用者宅に願う。
- ② 調理器具の使用後は、所定の置場に収納する。
- ③ 常に、整理整頓に努める。

事例17 空焚きの鍋を掴み火傷をする

1 災害の概況

項目	内容
介護労働者	経験2年、40歳代の女性
作業	その他
災害の型	高温、低温の物との接触
起因物	ガスレンジ
傷病	右手の火傷
災害の程度	1週間の休業災害



2 発生状況

介護労働者が、利用者宅の台所にいったところガスレンジで空焚きしている鍋を発見し、あわてて加熱されていた鍋の取手を掴んでしまい、右手の手の平を火傷した。

3 原因

- (1) 火気を使用しているにもかかわらず、人が火の元から離れ、空焚きしてしまった。
- (2) あわてていたため、鍋が熱くなっていることを気づかず、鍋をつかんだ。

4 対策

(1) 事業者

- ① 空焚きを発見した場合など、非常事態の対応について、留意点を取りまとめ教育を行う。
- ② 安全意識高揚の教育（KYT—危険予知訓練の導入等）を行う。

(2) 介護労働者

- ① 空焚きについて利用者宅に伝え、火気使用の際は火の元を離れないようお願いする。
- ② 空焚きを発見した時は、まず火を止め様子を見るようにする。
- ③ 空焚き防止機能のついているガスレンジがある場合は、できるだけそちらを使うようお願いする。
- ④ 加熱中の鍋等を掴むときは、鍋掴み等を使用する。
- ⑤ 鍋から火が飛び出ないように火の量を調節し、普段から鍋の取手が熱くならないようにする。